

## 審議会等の会議結果報告

1. 会議名	第2回松阪市教育ビジョン検討委員会（学校訪問）
2. 開催日時	令和2年11月6日（金）14時00分～15時00分
3. 開催場所	松阪市立飯高中学校 会議室 他
4. 出席者氏名	（委員）◎竹内委員、○松江委員、浅沼委員、小濱委員、鈴木委員、村上委員、島津委員、齋藤委員、坂口委員、瀬古委員、丸口委員 （◎委員長、○副委員長） （事務局）鈴木事務局長、村田事務局次長、中西参事兼教育総務課長、尾崎学校支援課長、西出子ども支援研究センター所長、小泉学校支援課担当監、小林教育総務課教育政策係主任、脇葉学校支援課指導主事、楠本学校支援課指導主事
5. 公開及び非公開	公開
6. 傍聴者数	0人
7. 担当	松阪市殿町1315番地3 松阪市教育委員会事務局 教育総務課教育政策係 電話 0598-53-4381 FAX 0598-25-0133 e-mail syom.div@city.matsusaka.mie.jp

### 協議事項

- ・ ICT 活用の充実により、今後の情報教育に期待すること
- ・ ICT 活用が進むなかでも、大切にしていかななくてはならない教育について
- ・ 地域とともにある学校教育について

## 第2回 松阪市教育ビジョン検討委員会（学校訪問） 議事録

【日 時】 令和2年11月6日（金）

14時00分～15時00分

【場 所】 松阪市飯高町宮前 927 松阪市立飯高中学校 会議室

【出席者】 委 員：竹内委員、松江委員、浅沼委員、小濱委員、鈴木委員、村上委員、  
島津委員、齋藤委員、坂口委員、瀬古委員、丸口委員  
事 務 局：鈴木事務局長、村田事務局次長、中西参事兼教育総務課長、尾崎  
参事兼学校支援課長、西出子ども支援研究センター所長、小泉学  
校支援課担当監、小林教育総務課教育政策係主任、脇葉学校支援  
課指導主事、楠本学校支援課指導主事

### ○議題1：ICT活用の充実により、今後の情報教育に期待すること

委 員 今日 iPad を使った授業を見せていただいたが、我々がやっていた授業とはまるきり違って、実際に子どもたちが iPad を使った授業に関してどのような感想を持っているかが分かった。子どもたちは操作もいろんな形で勉強していかなければいけないが、今は自分で調べた授業の中でわからない部分をリアルタイムで確認したりすることができる所以说っていたので、そういうことはこれからの時代に非常に役に立つ。

プレゼンテーションの資料のまとめ方も、我々の時代であれば紙に書いていたが、こういったツールを使うことによってすごくいい感じにできるものだと感じました。ただ、iPad を使うこととノートに書くことのバランスはどうされていますか？

事務局 発表の時も自分たちのシナリオなど、自分の発表する内容の下書きをまず書いてみて、タブレットと併用しています。

委 員 書いて覚えることは、引き続き紙と鉛筆で書いて覚えていく。全体を俯瞰してみるのは iPad の方が便利。その特性を見極めて使っていてすごいと思いました。あと編集する機能。いろんな意見を集めてそれをどうやって編集していくかというのは、子どもたちの iPad、ICT の活用力にかかっていくので、素晴らしい実践をされていると感じました。

委 員 数年前に松阪市内の中学校の授業参観にお邪魔する機会があって、すでに iPad を用意されていたのですが、数年経ってどうなっているのかと楽しみに思っていました。私は文章は書いて覚えるものだと、ずっと先入観で思っていました。自分で調

べたりお話を聞いたりしたものを、自分の言葉で自分の字でまとめて最終的に iPad で映像にしていたので子どもたちがうまく活用しているという印象を受けました。

委員長 何年か前に文科省の方にも来ていただいて発表を見させていただいた。今回、やはり生徒や子どもたちが自分のもののように管理しているような感じを受けました。

委員 IT リテラシーの教育は授業の中で行われているのでしょうか。

事務局 1 年生が入るときにその点については説明させていただきます。

## ○議題 2 : ICT 活用が進むなかでも、大切にしていかななくてはならない教育について

委員 調べたことをどうやって話そうと考え、書いて、iPad で表すこともすてきだなと思って見させてもらいました。小学校では高学年が 1 年生に絵本を読み聞かせに行っているが、どうすればうまく伝えられるか、モニターに映しながら考えてやっているところがあってすてきだなと思った。修学旅行の事前学習では、各班でいろんなポイントを調べて、それを iPad でまとめて、みんなで共有している。とても幅は広がるのだなと思います。人と人とのつながりを大事にしながら、環境を作っていきたいと思っています。

委員 二つ目の協議事項のことについてですが、GIGA スクール構想の中で 1 人 1 台タブレットが配布されるということテーマにアンケートを実施させていただきました。保護者として一番心配されていることは、やはりいじめに発展したり、誹謗中傷の書き込みであったりについてです。子どもというのは、大人がいない時にいろんなことをしていくんですね。それはおそらく、大人が思っている以上。実際に大人が使う以上に、今日子どもたちのスピード早かったですよね。あれを見ると、僕たちは興味を感じる部分も正直言ってあります。ただ、犯罪に巻き込まれるんじゃないか、そういった危機感を多くの保護者が持っていますので、やはり人権や道徳を大切にしてほしいと思います。もう一つ、人と人のコミュニケーションというのも多くの方からご意見をいただいています。会話をしていろんな思いを伝えているわけですから、そういったところが欠如しないような教育も必要だろうという意見も保護者の方からいただいています。

委員 先生と生徒たちが映像を見ながら質問したりレスポンスしたりと素晴らしいことをやっていると思いました。また、子どもたちは学校が定めているものに加えて、主になって自分たちなりに決まりを作っている、それは望ましいことであると思いました。

委員 話を聞いている中で共感したのは、校長先生が最後のところでおっしゃった、こういうふうな機器を使うことを目的とせず、これを活用してプラスアルファにしていくということに重きを置いてらっしゃる、全くその通りだと思います。おそらく子どもたちは使い方を大人から教えてもらわなくても、その使い方が良いか悪いかは別として、機器の使い方自体は、自分たちでどんどん学んでいく。30年40年前のコンピューターだと説明書のようなものがないとだめだったのが、もう今、タブレットやスマホは説明書なしでどんどん使いこなせるようになっている。これが普通なのですから、そういう意味で大事なのは、教職員がその良さとかをよく勉強していただいて、どのようにそれを授業で活用していくかがポイントになるんじゃないかと思います。子どもたちに使い方を教えるのではなくて、教職員がしっかりとした使い方をしていけるようにサポートしていただければ心配はないのではないかと。子どもが学ぶ機会や範囲がどんどん広がって、自主性・創造性が育まれるような形で、うまく活用できるんだと思いながらお話を聞いておりました。

委員 子どもたちが生き生きと明るく前向きに活動している様子を見せていただきました。先ほどから「ICTを使うことによって、人とのコミュニケーションが」という話を、私も共感させてもらいました。子どもたちに「休校中にiPadを使っていたのと、学校で使うのとどっちがいいか」という話をしてもらいましたが、「学校で先生の授業を受けながらみんなの顔を見て使う方がいい」とはっきり言っていて、それはiPadをそのまま使うのではなくて、コミュニケーションの中に入れていくということ想定しているのだろうと思って聞かせてもらっていました。I-HOPEの授業を見せていただいたときにも、実際自分たちで地域の人に一日密着して実生活を見てきたうえで使っている。だから人と人とが関わっているし、地域や周りの人とも関わる中で使っているのだから、それで明るく活動できているのかなと思いました。iPadが導入されて、今後自分たちも勉強しないといけないし、子どもたちにも教えていかなければならない立場になっていくと思う。子どもたちがiPadを使うとなると、ゲームをすとか楽しいことをすとか、そんなイメージしかないですけど、「人と人とのコミュニケーションを大事にしながら使っていかなきゃいけないんだよ」と伝えていきたいと思って見させていただきました。

### ○議題3：地域とともにある学校教育について

委員 コミュニティ・スクールは第四小に2011年からあります。学校でやることから「先生たちを助ける」とか、「お手伝いするんだ」というのはよく見られると思っています。子どものことは学校に任せとけっていうのでずっと100年から続いていたわけで、それを当時と同じように地域の住民も子どもに関わっていく教育支援をしていくんだと、そのあたりをどうしていこうかというのが一番難しいところです。い

ざ一緒になってやってみると、まだできていないところがあるように思う。この地域は学校には昔から非常に協力的。穏やかな地域性なので「支援してもらった」「協力してもらおう」ということで終わって、せっかくのコミュニティ・スクールの取り組みが身についていかない。当初「このコミュニティの学校運営協議会っていうのは、何がベースになるんですか」と質問したら、残念ながら誰も答えられなかった。飯高のコミュニティ・スクールのベースになるのは、やはり過疎の問題じゃないですか。子どもと地域が授業をしながら、子どもたちが自分たちの今後はどうなんでしょうと考えるようになったらと思います。たぶんいろんなところへ出て行くと思うんですが、出て行っても帰って来たいと思うような、あるいはどこへ行っても自分の産まれた飯高という温かいものが自身の中にある。そのために今あるべきは何かというのは、コミュニティ・スクールという形でもってほしいと思う。

委員 幼稚園の中でも地域の人たちとの交流とか、地域へ出かけたりというような活動をしています。今日も飯高中学校の実践を聞かせていただき、地域の方と子どもがしっかり交流学习している様子を学ばせていただきました。幼稚園でも地域と交流するのですが、子どもにこんな力をつけてほしいとか、コミュニケーション力を養うとか、地域を大切に思う気持ちとか、どんな子どもに育てたいかという教員の願いと目的をしっかりと地域の方に伝えながら連携したいと思います。地域と連携するためには、教員の方も地域のことをよく知らないといけませんし、努力もしていかないと、と改めて思いました。

委員 子どもたちは自信をもって授業をしてましたし、ICT を使ってよかったと思いました。でも保護者の方にとっては、はじめて全ての学校に入れることで不安がついて回ると思いますので、ぜひそのあたりを教育委員会の方でも少しでもなくしていただいて、子どもたちが広い世界を、コミュニケーション能力や繋がる力をつけていくんだというのが伝わるようお願いしたいと思います。

委員 ICT を否定しているわけでは全くなくて、この飯高中学校には不安はないと思いますが、ただ、旧松阪市内の学校は人数も多いですし、ICT に関して必要な議論だと思いますね。またそれがすべてではない。いい形で導入できるように、私どももご協力させていただきたいと思います。